

公益
社団法人

日本麻酔科学会

NEWS LETTER

2018

vol. 26 no. 3



第65回学術集会報告

日本麻酔科学会第65回学術集会は、2018年5月17～19日に、パシフィコ横浜・東急ベイホテル横浜で開催されました。有料参加者合計は10,022名(会員9,308、名誉会員35、非会員679)、無料参加者は、医学生・研修医(招待)・受入留学生等で約640名でした。会長として、今回の集会は、3年ほどの時間をかけて企画しました。集会のテーマは、麻酔という診療科の基本の見直しと今後の方向性を考えたいとの思いから「麻酔科の基盤を見直し、未来につなげよう」とし、これを踏まえて各種の企画をしました。実行委員会には、9つのWGを置いて各WG長の先生方に学術集会の運営について相談しながら、主に一般公募演題について、また、各領域に関する最近の話題を軸に、招待講演、招請講演を企画しました。

会長企画では、多方面からの話題を取り入れたいとの思いがありました。古代エジプトと医療、バーチャルリアリティー・ミクストリアリティーなどの新しい映像技術、臨床を実現している空間である手術室という建築が学べる講演、微生物の特徴に関する講演、記憶や痛みといった神経科学分野、米国での医療安全などで、これは英語でしたが専門医共通講習会としました。また各種委員会の提案企画は、時間の競合に配慮して編成しました。前回と同じく、同時通訳はすべての英語の講演に付けました。

新企画の一つは、若手研究者の創造性を具体化する資金を学術集会で提供したいとの思いで、ピッチコンテストと題して、発表時間の短い研究発表を企画しました。第64回学術集会の折りに、単年度及び2年度に亘る研究奨励金付き研究課題を公募し、この1年間をかけて研究した成果を発表するセッションを設けました。素晴らしい成果を発表して頂きました。これらの成果は近々論文になるはずで、次回にも引き継がれて行く予定です。

今回の学術集会の一般演題の応募数は856題でした。査読が厳しかったのか、最終の平均採択率は66.6%となりました。この数字の評価は難しいですが、最近是一般演題の応募数そのものが減少しているのが気になります。専門医共通講習に多くの会員が参加できるようにする工夫を含めて、学会として、学術集会のあり方、専門医共通講習会との分離開催など、検討課題なのかも知れません。さらにいえばe-Posterの導入も検討課題でしょう。

お楽しみとしては、広島のお菓子と銘酒を用意しました。もみじ饅頭はネームカードに引換券をつけて展示会場で交換し、用意した4,000個はすべてなくなりました。銘酒は会員懇親会で提供しました。また落語も企画しました。一時、肩の力を抜いて、笑って頂けるようにとの思いからです。幸い多くの参加者があり、本格的古典落語を楽しんでいただけたと思います。ご参加頂いた皆様に、楽しみ、学べる集会になったものと信じます。幸い3日間、天候には恵まれ、広い会場で展示会場にも余裕があったせいか、ポスター発表も順調でした。

今回の学術集会の開催にあたり、企画運営にご協力頂いた会員諸先生方、委員会、領域別WGの皆様、そしてWG長の皆様、その他WGメンバー・サテライトメンバーの先生方に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。おかげさまで滞りなく、順調円滑に運営できたことを何より嬉しく存じます。



(公社)日本麻酔科学会
第65回学術集会会長

河本 昌志

第66回学術集会会長挨拶

(公社)日本麻酔科学会 第66回学術集会開催にあたって

この度、日本麻酔科学会第66回学術集会の会長を拝命しましたこと、誠に光栄に存じます。心から感謝いたしますとともに、一言ご挨拶申し上げます。第66回学術集会は2019年5月30日～6月1日の3日間、神戸で開催を予定しております。本来であれば第51回大会(名古屋大学 島田康弘会長)の時と同じように名古屋で皆さんをお迎えしたかったのですが、当時と比べて参加人数が飛躍的に増え、適切な会場設定という観点からと、もう一つは神戸で本学術集会を開催いたしますと、財政上の様々な面で有利な点もございますので、学会の財務を担当させていただいた経験からも、神戸での開催とさせていただきます。皆様のご理解をいただけますと幸いです。

会員の皆様のご期待に応じられる学術集会となるよう、学術集会実行委員会の皆様と共に、現在鋭意準備を進めているところでございます。会員の皆様には、講演や座長をご依頼したり、査読をご依頼することと思いますが、どうかよろしくご協力お願い申し上げます。また、学術集会の肝は何と言っても一般演題です。昨今臨床研究を進めるにも様々な面からの配慮が必要となり、手続きが複雑となっておりますが、多くの会員の皆様からの素晴らしい発表を期待しております。締め切りの11月30日(金)に向けて準備を進めていただけると幸いです。

今回の学術集会のテーマは、「Professionalism」とさせていただきます。麻酔科医の仕事は、いつも待たなしの決断の連続です。日々の臨床における目の前の患者に対する術前評価や麻酔・術後鎮痛法を含めた周術期管理法の選択、集中治療における診断・治療法の選択、ペインクリニックにおける診断・治療法の選択、それらの中の疑問を解決すべく立案する臨床・基礎研究、それらを含めた病院の中での麻酔科医の役割、病院の内外における医療安全に関する麻酔科医の役割、日本の医療における麻酔科領域の医療に責任を持つという意味での日本麻酔科学会の役割や方向性、そういった様々なレベルや状況において、日々我々麻酔科医は判断を下して前に進んでいます。その判断を下していく時に、さまざまな観点からの考え方が時にぶつかり合いますが、それらを総合的に判断していくためのすべてを裏打ちする背骨ともいべき判断基準が何かと考えると、それは麻酔科医としてのprofessionalismであると思われまます。つまり、麻酔科医としてのprofessionalismに照らし合わせて、どうすべきかという基準に基づいて判断していけば、ぶれることのないあるべき判断を下せるように思われまます。今回の学術集会では、麻酔科領域の様々なissueについてprofessionalismという観点から考えてみて、我々はどうすべきか、どこに向かうべきかについて考える機会とさせていただけたら幸いです。

本学会でも、海外演者の発表に対する同時通訳サービスを継続します。言葉の壁を低くしておりますので、海外演者の講演に積極的に参加いただき最新の知見に触れると共に、国際交流の輪を広げる機会としていただけたら幸いです。また、64回から選考が始まり、65回から成果発表が始まるピッチコンテストも継続して行います。皆様の積極的な応募ならびに成果発表の場へのご参加を、是非ともよろしくお願い申し上げます。



名古屋大学大学院医学系研究科
麻酔・蘇生学教授

西脇 公俊

2018年度 学会賞受賞者

山村記念賞を受賞して

岡山大学病院 武田 吉正

この度は第37回日本麻酔科学会山村記念賞を賜り大変光栄に存じます。今回の受賞研究は諸先輩方の研究の延長線上にあります。研究室を支えていただいた医局、諸先輩方、大学院生、そして研究にお力添えをいただいた共同研究者の方々に厚く御礼申し上げます。

年間12万人が心停止で救急搬送されていますが、社会復帰できる人はごくわずかです。私は社会復帰率向上を目指し、蘇生時冷却法の研究を行ってきました。日本蘇生協会のガイドラインでは自己心拍再開後に体温管理療法が推奨されています。しかし、自己心拍再開前(蘇生時)の脳保護法は明らかにされていません。自己心拍再開前と再開後では脳障害のメカニズムが異なります。自己心拍再開後は炎症やアポトーシスといった多因子で障害が進行しますが、再開前はグルタミン酸の過剰放出といった単因子が障害原因です。グルタミン酸の放出は33度以下の低体温で停止するため、胸骨圧迫しながら脳温を低下させる必要があります。そこで、私は咽頭冷却法を開発しました。頸動脈は咽頭に沿って上行しており、咽頭を冷却すると血行性に脳を冷却する事が可能です。ラット、ニホンザル、ヒトを対象とした基礎研究と、全国19の救命救急施設で心停止患者に対する多施設臨床研究を施行し安全性と有効性を確認しました。咽頭冷却は蘇生前に施行可能な冷却法としてガイドラインに掲載され、2016年に保険収載を果たしています。

急変時に麻酔科医は最も早く駆けつけ治療を行います。麻酔科医なら自己心拍再開前から脳保護を行うことが可能です。この研究が皆様の臨床のお役に立てば幸いです。

松木賞を受賞して

獨協医科大学埼玉医療センター 浅井 隆

この度は日本麻酔科学会松木賞を受賞させていただき、光栄です。

本賞を創設された弘前大学名誉教授の松木明知先生は、華岡青洲が世界で初めて全身麻酔下に手術を施行したことを世界に認識させるなど、医学史に関して国際的な貢献をされ、医学史に関する新知見について今なお精力的に公表なさっています。

高校生の時に、学校で習った西洋の名著とはどのようなものか見てみたくなり、ボッカチオの「デカメロン」の邦訳を本屋で立ち読みしてみました。分厚い本をパラパラと見ただけでしたが、赤裸裸な話ばかりで驚きました。それがきっかけで、アリストテレスやプラトンなどの哲学書や聖書などの邦訳を読み漁るようになりました。そして、解説本に書かれている内容は美化、歪曲されていることが多く、また引用の間違いも少なからずあることに気づくようになりました。そしてなにより、原本の方が解説本に比べはるかに生き生きとして面白いと思いました。

希少本、とくに手書き写本や書簡などを閲覧するには、所蔵する図書館に依頼状を出し、指定された日時にその図書館に行き、短時間の閲覧しかできませんでした。しかし、近年、世界中の古書がスキャンされ、インターネット上で無料で閲覧できるようになりました。そのため、分厚い書籍や手書き写本であっても、何十時間でも見ることが可能になっています。

松木先生は歴史研究においては原本などの一次資料を調査するのが重要、と強調されています。今回、受賞させていただいた「気管挿管の歴史」には、一次資料を調べることにより、多くの新知見を示すことができたと思っています。今後、麻酔史、医学史により多くの人が興味を持たれることを願っています。

松木賞受賞とBioDesign

聖路加国際大学 宮坂 勝之

松木賞は、親子二代が医師・歴史家の弘前大学松木明知名誉教授の名を冠し、麻酔科学を全体として眺める大切さに光りを当てる、という他の学会では例を見ない特異な価値を持つ栄誉です。私自身が歴史的業績を成したのではないだけに、身の丈を超えた賞を受賞でき光栄に思います。

パルスオキシメータ発明以後の麻酔科医が大半となった現在、開発の歴史研

究の意義は、低迷する日本の医療機器開発の促進にありました。2002年ドイツで始まり、5年ごとに開催されるIAMPOV (Innovations and Applications of Monitoring Perfusion, Oxygenation and Ventilation)という、研究開発に関わる生理学や医用工学研究者、麻酔科医が集まる国際会議があります。そこでは発表者が、1974年の日本光電工業株式会社の青柳卓雄博士の発明に感謝を表し、会場から大きな拍手が湧く場面が繰り返されてきました。この誇らしい光景を日本に、また開発の背景を世界に知らせる責任を感じ、2015年の東京開催を実現させ、それは青柳氏のIEEE賞受賞にもつながりました。

日本には、青柳氏の発明とは独立したミノルタカメラ(現コニカミノルタ)の山西昭夫氏による1977年の世界最初の実用機開発がありました。残念なことに日本の医療界の構造的な問題により普及しませんでした。その技術は米国の小児麻酔科医により臨床的製品として開花しました。皮肉にも日本の先端LED技術が米国小児麻酔科医を支えたことが、日本での普及を妨げました。幸い株式会社東機貿の佐多保彦氏による啓発販売戦略がその逆風を覆しましたが、日本の医療機器開発へのBioDesign概念導入の必要性を裏付ける歴史だといえます。

若手奨励賞(臨床)を受賞して

島根大学医学部附属病院 平林 政人

この度は、名誉ある若手奨励賞を受賞させていただき、誠に光栄に存じます。

今回、受賞の対象になった論文は、『Prophylactic Pentazocine Reduces the Incidence of Pruritus After Cesarean Delivery Under Spinal Anesthesia With Opioids: A Prospective Randomized Clinical Trial』です。妊婦では脊髄くも膜下オピオイドによる痒みの頻度が非常に高いにも関わらず、その予防法については確立していませんでした。我々は、 κ オピオイド受容体に作用するペンタゾシンに着目し、その予防的効果を明らかにしました。

本研究は、私のオピオイドによる痒みの症例報告と我々の教室で行われている痒みの基礎研究をもとに行いました。私は多くの先生方を代表してこのような素晴らしい賞を受賞させて頂いたと感じております。今回の受賞に恥じぬよう、今後さらなる臨床研究を継続していきたいと存じます。

最後になりましたが、本研究にあたり多大なご指導を賜りました浜田医療センター 土井 克史部長、また、島根大学麻酔科学教室の齊藤 洋司教授、今町 憲貴准教授をはじめ教室員の皆様に感謝申し上げます。

若手奨励賞(基礎)を受賞して

新潟大学大学院医歯学総合研究科 大橋 宣子

この度は名誉ある若手奨励賞を受賞させて頂き、大変光栄に存じます。今回、受賞の対象となったのは、「Acetaminophen Metabolite N-Acylphenolamine Induces Analgesia via Transient Receptor Potential Vanilloid 1 Receptors Expressed on the Primary Afferent Terminals of C-fibers in the Spinal Dorsal Horn (Anesthesiology 2017; 127: 355-371).」という論文で、これまで解明されていなかったアセトアミノフェンの鎮痛機序を、行動学、電気生理学実験を用いて検討し、アセトアミノフェンはN-アシルフェノールアミンへと代謝された後、脊髄後角ニューロンのC線維終末に存在するTRPV1受容体に作用し、脊髄レベルで鎮痛効果を発揮することを明らかにしました。

私は大学院で初めて基礎研究に携わり、卒業後も臨床とともに脊髄を用いた痛みに関する基礎研究を継続しており、今回受賞した研究テーマであるアセトアミノフェンのように、我々麻酔科医が周術期に使用する薬剤が脊髄においてどのような作用をもたらすのか研究しております。現在は、University of California, San Diegoへ留学し基礎研究を行っておりますが、今回の受賞を励みに、引き続き精進し麻酔科学の発展に貢献できればと存じます。

最後になりましたが、本研究にあたり直接ご指導いただきました東北医科薬科大学病院 麻酔科学の河野 達郎教授、およびこのような研究の機会を与えてくださいました新潟大学大学院医歯学総合研究科 麻酔科学分野の馬場 洋教授をはじめとする多くの医局員の先生方に感謝申し上げます。

第65回学術集会 最優秀演題

第65回学術集会 最優秀演題が下記の通り決定いたしました。

演題番号	領域	タイトル	演者	所属
Q01-3	産科	周産期心筋症重症患者における当院での過去2年間の治療結果の検討	南 有紀	大阪大学大学院医学系研究科 生体統御医学講座 麻酔集中治療医学講座
Q02-3	麻酔科関連-1 基礎	デスフルランは膜電位依存性ヒト Kv1.5 (hKv1.5) チャネルを構成するアミノ酸に直接作用して抑制作用を発揮する	福島 豊	滋賀医科大学
Q03-4	麻酔科関連-1 臨床	上腹部開腹手術における右肩痛についての検討	芳野 泰史	東京大学医学部附属病院 麻酔科・痛みセンター
Q04-2	麻酔全般	大腿骨近位部骨折早期手術のための手術決定アルゴリズムの有用性の検討：後ろ向き研究	植木 正明	西脇市立西脇病院
Q05-5	麻酔科関連-2	陰圧を用いた超音波探触子補助装置の内頸静脈拡張効果	丸田 弦	福岡大学医学部麻酔科 / 福岡大学筑紫病院麻酔科
Q06-2	循環 基礎	TRPC チャネルの活性阻害はマウス摘出心臓における虚血再灌流後の心機能障害を改善する	小嶋 亜希子	滋賀医科大学
Q07-5	循環 臨床	心臓手術中のハプトグロブリン投与による術後腎障害発生リスク低下は術前腎機能低下患者でより強い	小阪 円	神戸大学医学部附属病院
Q08-3	ペイン緩和・ 局所麻酔 基礎	Stiripentol は神経障害性疼痛モデルマウスの疼痛閾値を改善させる	藤原 淳	大阪医科大学麻酔科学教室
Q09-6	ペイン緩和・ 局所麻酔 臨床	慢性頸肩腕痛患者における恐怖回避思考が安静時脳機能的結合に及ぼす影響についての検討 —患者対照比較試験	伊原 奈帆	慶應義塾大学医学部 麻酔学教室
Q10-1	神経	Dose dependent effects of nanoemulsion loaded resveratrol on postoperative cognitive dysfunction in aged rats	Fabricio Miguel Locatelli	Kochi University
Q11-4	小児	小児用細径気管チューブの種類、マーフィー孔、スリップジョイントが圧流量特性に与える影響の検討	吉田 典史	東北大学病院
Q12-2	救急・ICU	肺炎球菌下気道感染モデルマウスにおける補中益気湯の予防的感染制御効果の解明	出野 智史	慶應義塾大学医学部麻酔学教室 / 北里大学北里生命科学研究所 和漢薬物学研究室
Q13-1	呼吸	女性において超音波による輪状軟骨内径測定に気管支径測定を加えてダブルルーメン気管支チューブ選択すると挿入の成功率が高まる	武末 美幸	独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院

第65回学術集会運営報告(大会長、学術委員会より)

学術集会運営にあたり、色々行き届かず皆様にご不便をおかけしたことをお詫びいたします。

アンケート等による皆様のご意見を参考に、今後の運営に活かし、改善してまいります。会員の皆様には運営にも係わっていただく場合も多々あり、今一度、皆様にも学術集会への参加の姿勢についてお考えいただきたく、今回の事例について以下にまとめてご紹介致します。

対象者	問題概要	詳細
参加者全般	予約の無断キャンセル	開催前には席数不足などの運営に対するクレームや意見が多く寄せられたが、一方で当日は無断キャンセル等が多く、予約上は満席であっても、受講率が80%以下に留まった会場が多かった。 当日も空席確認が出来るシステムが利用できることをプログラム集や参加案内で公開しており、この仕組みを活用して頂きたい。
参加者全般	会場スタッフへの暴力・暴言	総合案内で受付スタッフに唐突に資料を叩きつけて怒鳴るなどの暴言があった。内容はHPやプログラム集、メルマガ等に記載の公表事項であったため、そのことを説明したことで自身の注意不足を自覚されたが、暴言への謝罪もなく、去っていく方が複数あった。
参加者全般	端末機器の紛失	アナライザー・同通レシーバの返却がされない(4台)ものがあり、学会で弁償する必要が生じた。
参加者全般	落し物の多発	落し物として、クレジットカードや財布などの貴重品が多かった。 落し物をした本人が帰路についてから届け出たものも多く、会場で受け取れないため郵送を依頼するなど、過剰な負担が生じた。
関連団体	取扱い一任で受託したポスターの問い合わせやクレーム	関連団体や広告掲示希望者には事前に案内して、本学会へ展示物を依頼する際は貼付場所等の一任を了解していただいているが、当事者から掲示場所の確認や送付物の確認、貼付場所の問い合わせや場所案内の依頼が多く発生した。 期日以内に受理したポスター等の展示物は全て出展者の要望通り対応しており、本学術集会の本来業務ではない照会が多く、結果的に運営に支障をきたした。
座長	座長受付をしない、結果を提出されない	一般演題座長は発表者の単位付与根拠資料となる発表チェック表の記入と提出が必要である。チェック表の提出が無いと発表者の発表単位が付与されないため問題が大きい。チェック表と指棒を発表会場に放置、紛失するなどの行動があった。 また座長は発表時間前に受付にくることを要請していたが守られない事案が複数発生した。座長受付に来ない場合、代理座長を別途準備する必要があり、過剰な負担が生じた。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	入・退室のカードリーダーの設置位置に対する不満から、現場スタッフに怒鳴り、スタッフの腕を掴んだ方があった。止めに入ったスタッフの腕も掴まれ、怒鳴られた会場スタッフが警察へ被害届を出したいとの申し出があった。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	事前予約のない会員が、共催セミナー会場の当日列で、「並ばせた以上座らせる、それがお前らの仕事だろ」と現場スタッフに怒鳴った。現場では直ぐには空席の有無は分からないことを伝えても、繰り返し同じ内容で罵り続けていた。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	領域講習の入場時にICリーダーへのタッチ音が確認できなかったため、スタッフが確認のために立ち止まって頂くよう呼びかけた所、「お前らのやっていることは泥棒探し」と怒鳴った。
会員	会場スタッフへの暴力・暴言	配布物があるから配ってくれ、手伝う人員を手配してくれと講演直前に依頼があり、会場での即時対応は難しいことを説明したところ、「抄録に配布物と書いてあっただろ、それなのに準備(配布や専用スタッフの配置)をしていない」と怒鳴った。

また、事前予約の必要な講習等については、申し込み時点で定員に達した、席数が少ない等のご意見がございました。一方で、実際の利用率、受講実態は右記の通りでした。予約方法等については今後も改善を検討してまいります。第65回会期中は当日受付も可能な状態であり、当日の申込みが十分活用されたとは思えない実態もありました。今後は当日予約が可能な(専門医機構認定の共通・領域講習)講習につきましても、空席を確認のうえ、お申込みをご活用ください。プログラムや申込み可能数については次年度以降も引き続き、今年度の実績に基づき検討を行ってまいります。

託児所利用状況

	5月17日	5月18日	5月19日
予約可能枠	60	65	60
予約数	50	58	49
実利用者数	40	47	36
当日・無断キャンセル	10	11	13

医学生・研修医招待企画

	5月18日
申し込み数	741
実来場者数	636
当日・無断キャンセル	105

専門医共通講習(K)・麻酔科領域講習(R)空席率と予約率

セッションコード	平均受講者数	平均空席率	予約率(参考)
専門医共通講習(K)	730	23%	100%
麻酔科領域講習(R)	292	24%	100%

学会賞募集について

学術委員会

2018年8月1日より(公社)日本麻酔科学会の学会賞を募集しております。各賞の応募要項をご確認の上ご応募ください。多くのご応募をお待ちしております。募集要項等、詳細は学会HPをご覧ください。

	対 象	応募締切日
山村記念賞	日本麻酔科学会の最高の賞として最も優秀な業績をあげた会員に授与する	2018年10月19日(金)必着
青洲賞	日本麻酔科学会において最も優秀な臨床研究業績をあげた会員に授与する	2018年10月19日(金)必着
松木賞	麻酔科学史及び関連した医学史に関して、優れた研究業績をあげた個人または団体に対し授与する	2018年10月19日(金)必着
若手奨励賞	日本麻酔科学会において最も優秀な研究論文を発表した会員に授与する	2019年 1月18日(金)必着
社会賞	麻酔科学のためのみならず広く社会に貢献した個人あるいは団体に対する賞とする	2018年11月20日(火)必着

第 65 回学術集会 麻酔博物館出張展示報告

麻酔博物館委員 牧野 洋

第65回学術集会開催中の5月17日(木)～18日(金)の2日間、パシフィコ横浜展示ホールにおいて麻酔博物館出張展示を開催いたしました。今回は、『吸入麻酔薬の歴史』をテーマとしたパネル及び物品展示を中心に、この度誘致に成功した「国際麻酔科学史シンポジウム (ISHA)」のPRパネルを作成・展示いたしました。2021年度の学術集会との併催になりますので、今後多くの方に周知・参加のお願いをしていきたいと考えております。

当日、本出張展示にお越しいただいた皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、ご協力いただいたアンケートを通じて数多くのご意見を頂戴することができました。今後の博物館運営に生かしていきたいと思っております。

次回の第66回学術集会は神戸市での開催となりますので、麻酔博物館にて特別展示を行う予定です。麻酔博物館は現在、華岡青洲、パルスオキシメータ、セボフルランなど、麻酔の歴史上重要な日本発といえる事柄の新しい展示コーナーを準備しています。是非ご覧くださいませと幸いです。

麻酔博物館団体見学報告

麻酔博物館 館長 武田 純三

本年4月5日(木)に中央電気倶楽部の40名前後の団体の見学がありました。中央電気倶楽部は大阪市に拠点を置く電気関係者の団体で、講演会や見学会等も活動として行っている法人団体です。年配の方も多くみられましたが、科学には詳しい方々で、的を射た質問を受けました。30分程度でしたが、私が説明をさせていただきました。



2018年度支部学術集会 開催日程

日 程	学術集会名	会 長	会 場
2018年9月1日(土)	北海道・東北支部第8回学術集会	国沢 卓之	星野リゾート OMO7 旭川
2018年9月1日(土)	関東甲信越・東京支部第58回合同学術集会	落合 亮一	京王プラザホテル新宿
2018年9月8日(土)	東海・北陸第16回学術集会	谷口 巧	石川県立音楽堂
2018年9月1日(土)	第64回関西支部学術集会	中尾 慎一	大阪国際会議場
2018年9月1日(土)	中国・四国支部第55回学術集会	萬家 俊博	愛媛県民文化会館(ひめぎんホール)
2018年9月8日(土)	九州麻酔科学会第56回大会	垣花 学	沖縄コンベンションセンター

2018年度海外留学生受入事業について

国際交流委員会

2018年度は以下の留学生受け入れを実施しております。ご協力施設の方々に紙面を借りてお礼申し上げます。

番号	氏 名	居住国	受け入れ施設	受け入れ期間
1	Vishal Krishna Pai	インド	金沢医科大学病院	5月 6日 - 7月29日
2	Lam TienTung	ベトナム	山形大学医学部附属病院	5月 1日 - 7月29日
3	Lean Chung Yee	マレーシア	神戸大学医学部附属病院	5月 1日 - 6月30日
4	Meera Mohan Metha	インド	東京都立小児総合医療センター	5月 1日 - 5月31日
5	Tumenjargal Purev-Oidov	モンゴル	和歌山県立医科大学附属病院	5月 1日 - 7月29日
6	Eslam Albayadi	エジプト	名古屋大学医学部附属病院	5月 1日 - 7月29日
7	Arop Mawein Deng Kual	南スーダン	埼玉県立小児医療センター	5月 2日 - 7月29日
8	Magaret Yangkasaputra	インドネシア	杏林大学医学部附属病院	8月 1日 - 10月29日
9	Shariffah Raguang Syed Othman	マレーシア	札幌医科大学医学部附属病院	8月 1日 - 10月29日
10	Pipat Saeyup	タイランド	京都府立医科大学附属病院	8月 1日 - 10月29日

JA Clinical Reports (JACR) のカテゴリー追加と名称変更お知らせ

学術委員会機関誌専門部会長
JA Clinical Reports 編集長
廣田 和美

2015年にJournal of Anesthesia(JA)に次ぐ機関誌として、JA Clinical Reports(JACR)が創刊されました。この度、そのJACRの掲載論文のカテゴリーの見直しを行い改変致しましたので御報告致します。

当初は、Case Reports、Clinical Research Letters、Letters to the Editorの3つのカテゴリーでしたが、PubMed収録のために質の向上が求められたことから、機関誌専門部会で話し合い、Clinical Research LettersをOriginal articles (Clinical investigation)に昇格させ、さらにはClinical Review articlesのカテゴリーも作ることで、臨床麻酔科学に関するあらゆるタイプの論文を掲載できるジャーナルとしました。本誌の最大の特徴である、学会員であれば投稿料が無料のOpen Journalであることは維持されております。

Impact factorの上昇を目指すJAでの症例報告の採用が5%を切っており、「折角書いても殆んどが掲載されない」という状態を改善する目的でJACRは創刊されましたが、それ以外にもJAでは掲載が難しいレベルのOriginal articlesやClinical Review articlesも掲載できる場を提供することで、現在以上にJACRを若手麻酔科医の英文論文作成の登竜門として御活用頂けると期待しております。

勿論、JAにまず挑戦して貰っても良いです。例えJAでRejectになっても、JAの各Section EditorがJACRへTransferする場合がありますので、その際には是非ともJACRへの再投稿を考慮下さい。また、直接JACRへの投稿も大歓迎です。論文は採用されますと、数編集まる毎にネット配信されており、Google Scholar等のネット検索でも閲覧可能です。また、PubMed側から連絡はなかったものの最近になってPubMedへも収録されていることが確認されました。

尚、昨年後半からJACRの認知度がJSA会員間で上がってきたためか、投稿数も月10編を常に超すペースとなってきました。年間のSpringer Nature社とJSAでの契約論文数は80編のため、単純計算でも50編以上オーバーとなります。つまり、Accept率を現状の80%から50~60%程度に抑制する必要が出てきました。ついては、どこが新しい内容なのかを論文中にきちんと明記して頂き、査読者にアピールをお願いします。

JACR読者にとっても有意義なJournalに育てていきたいと思っておりますので、皆様の活発な投稿ならびに御協力を御願い申し上げます。

2018年度 第57回麻酔科専門医認定試験について

第57回麻酔科専門医認定試験についてお知らせいたします。

筆記試験 試験日：2018年9月30日(日)
試験会場：TOC有明(東京会場)・
神戸ポートピアホテル(神戸会場)

口頭・実技試験 試験日：2018年10月5日(金)、10月6日(土)、10月7日(日)
試験会場：神戸ポートピアホテル

*筆記試験は2会場(東京会場・神戸会場)、口頭・実技試験は1会場(神戸会場のみ)で実施します。

*試験範囲は、「麻酔科医のための教育ガイドライン-改訂第3版-」の内容です。ガイドラインは学会ホームページの「指針・ガイドライン」のページに掲載しておりますのでご確認ください。

*過去問題について
筆記試験について
..... 本会準機関誌「麻酔」に掲載
口頭・実技試験、専門医試験講評について
..... 学会HPに掲載

*実技試験は試験内容のテーマのみ公表
【HP掲載場所】
学会HP「マイページ」ログイン→認定申請について
→麻酔科専門医試験過去問題について

各種認定の更新申請について

麻酔科指導医・専門医・認定医の更新申請を、9月1日(土)～10月31日(水)【消印有効】で受け付けます。今年度更新が必要な方には、7月に事務局より更新申請案内をご登録いただいておりますメールアドレスに送付しておりますので、必要書類のご準備をお願いいたします。

申請の際には下記の点にご注意ください。

- *詳細は、学会ホームページのトップページ「重要なお知らせ」内の『指導医・専門医・認定医・認定病院更新申請について(10月31日申請締切)』でご確認ください。
- *事務局への申請書類送付の際には、簡易書留あるいは宅配便をお使い下さい。
- *職務経歴書・麻酔経歴書の書類不備(署名・押印の不足)は、施設の統廃合以外の理由では認められません。お早めに申請書類のご準備をお願いいたします。

◆審査料について

指導医：20,000円
→指導医更新が合格であれば、専門医認定医も自動的に更新されます。(専門医認定医の審査料は不要です。)

専門医：20,000円
→専門医更新が合格であれば、認定医も自動的に更新されます。(認定医の審査料は不要です。)

認定医：10,000円

※一度、お支払いいただきました審査料はいかなる理由があっても返金できませんので、審査料をお支払いされる前に、必ず申請条件をご確認ください。

また、今年度更新申請が必要な麻酔科認定病院につきましては、8月に施設長宛てに更新申請案内をお送りしております。代表専門医の先生方におかれましては、9月1日(土)～10月31日(水)【消印有効】の間に更新申請をしていただきますようお願いいたします。



札幌の新しい食文化

札幌医科大学 麻酔科学講座 茶木 友浩

北海道で麻酔科医として働き始めて9年が経ちました。もともと札幌出身ということもあり、雪は多いですがわたしにとっては本当に居心地の良い土地です。食べ歩きを趣味としているわたしですが、地元である札幌にもまだまだ未開拓な店が数多くあり、新たな銘店を探すのがわたしの最大の楽しみとなっています。

札幌を発祥としたジンギスカンやスープカレーなどは全国的にも広く知られるようになってきました。しかし、ここ最近札幌で話題になっているのは「シメパフェ」です。お酒を飲んだ後は、ラーメンで締めるというのが一般的と思われそうですが、数年前から薄野界隈で夜にパフェを提供するお店が増えてきたこともあり、最後にパフェで締める文化が徐々に根付いてきています。わたしも数店舗訪ねてみましたが、想像していたパフェとは少し様相の異なるパフェを頂くことができました。ピスタチオやマロンを使った食べ応えのあるパフェや、シャンパンとマスカットを使ったさっぱりとした大人な味わいのパフェなど、インスタ映えする綺麗なパフェが提供されますので、女性にもすごく人気が高いです。

また、わたし自身寿司が好きで、ミシュランの星を持つ店舗にも足を運び、ちょっとした贅沢をするのも楽しみの一つです。みなさんのイメージだと、北海道の新鮮な魚介類を食べる寿司というイメージを持っていると思いますが、札幌の寿司文化にも最近変化が起きています。確かに今までは素材が新鮮で美味しいこともあって、その素材を活かした寿司を提供するお店がほとんどでしたが、最近では、江戸前の手法を取り入れているお店が多くなってきました。「タネ」に酢メヤヅケといった江戸前の仕事を施した「蝦夷前寿司」を頂くことができます。

ここでご紹介した以外にも、札幌独自の食材、料理がまだまだたくさんありますので、学会などで札幌に来られた際には、ぜひ新しい札幌の食文化に触れて頂ければと思います。

止血ができる麻酔科医！？

東京女子医科大学東医療センター麻酔科 小高 光晴

最近、血液凝固にはまっています。元来、新し物好きの私は経食道心エコーの普及以降、心臓麻酔を専門としてきました。しかし、大血管手術を中心に「血液がさらさらしている」とか「コアグラ(凝血塊)が出来ない」などのセリフを時々心臓外科医から言われてきました。特に若手麻酔科医が「指導医がいない隙に？」よく言われるようで、しばしば汗する後輩を見て、上司として「何とかせねば！」とっていました。そんなことで当院では5-6年かけて徐々に血液凝固に関するポイントオブケア(以下POC)機器を買い足してきました。気付けばヘモクロンACTの他にHepcon HMS™、ROTEM™、ドライヘマト™と4種類の機器を有し、現在凝固管理を行っています。最初のころはとにかく術中止血が少しでも早く完遂できるようPOCのカートリッジや試薬をガンガン使いました。結果、確かに出血・輸血消費量は削減できましたが、試薬代が高くて「結局赤字？」など決して賢明とは言えない管理だったと思います。一方では当初POCに懐疑的だった心臓外科医からも徐々に麻酔科の輸血管理が信頼され始め、術後ICUで「術中余ったFFP全部溶かそう！」といった台詞もほぼなくなり、ほっと一安心しております。次なるステップとしては「なるべく少ない測定回数でより安い試薬」を用いて、検査そのものにかかるコストを抑えることです。経食道心エコーで予後を左右するDecision makingが出来た時もうれしかったですが、コスバの高い血液凝固管理ができた時もやはり高い充足感が生まれます。これら経験やデータなどを可能な限り後進に伝授し、今後は心臓外科以外でも大出血症例にどんどん活用できればと思っています。そして一人でも多くの「止血ができる麻酔科医！」を育成できれば嬉しく思います。

二足のわらじを履いて

金沢医科大学 麻酔学講座 本間 恵子

「ほんませんせーい。」

痛みのコントロールを依頼され、彼女に出会った時は、頸椎転移のため箸を持つことすらままならず「近いうちに歩けなくなるであろう」と予測していた。しかし、予想は裏切られ、今では少し走れるまで回復している。彼女に関わっていたのは1か月程であったが、月日がたっても声をかけていただけのうれしい限りである。

私が麻酔と緩和ケア(チーム)の2足のわらじを履き始めて約10年になる。最初は麻酔のほうが主であったが、今では緩和ケアを行う時間のほうが多いかもしれない。緩和ケアチームへの依頼は、教科書通りに薬剤を使用すれば十分症状コントロールできるものから、「誰か教えて!」と言いたくなるようなものまである。緩和ケア研修会の受講がほぼ必須になったこともあり、頭を悩ませるような難しい症例がやってくる。認知症のために症状の評価自体が困難な症例にあたることもしばしばである。家族もまた緩和ケアの対象である。様々な問題を抱えた家族があり、「人生ドラマ」の一節に参加させていただいていると思うようなこともある。

20年以上前、緩和医療の講義を受けたときに内科医の講師から「緩和ケアに麻酔科医はいらない」と言われ、「そんなはずはない」と思った。緩和ケアという言葉が当たり前になり、「麻酔科医でなくてもできることがある」と言いたかったのだとわかったが、麻酔科医は緩和ケアにとって必要であると考えている。痛みのコントロールに対して麻酔科は専門家であり、患者からも主治医からも頼られる存在であろう。がんを告知され、気持ちの整理がつかないまま手術となる患者さんが術前診察の場で、外科医には言えない本心を打ち明けることもある。

今年度から、緩和ケアチームの対象として末期心不全患者が加わった。今までとは少し違ったアプローチが求められるであろうが、目標は変わらない。患者さんと家族のより良い明日のために今日も頑張ろう。

寄り添いあう麻酔

和歌山県立医科大学 麻酔科学講座 西畑 雅由

僕はどちらかというと不器用です。お世辞や気の利いたことも言えないし、コミュニケーションも苦手な方です。そんな僕は、患者さんとの接し方に関して人一倍気を付けるようにしています。言葉遣いだけではなく、笑顔や話す速度、相手の目を見て話す。当たり前のことですが、忙しさと同時に、忘れがちになりそうなことです。上手な言葉がポンポンと出てこない分、僕はここに気を付けています。麻酔科は患者さんと接する時間は短いです。術前診察、手術直前、術後診察です。

術前診察で患者さんを訪室する際に「ちょっと顔見させてもらおうと思って、来させてもらったんよ。」和歌山の方言を含んだ僕の決め台詞です。病院、手術、医者、病気、普段の生活とは違う堅くて怖い状況から少しでも患者さんを救いたいという思いから、柔らかい言葉を使うようにしています。この言葉を使うとほとんどの患者さんは、顔に笑顔が浮かびます。

年配の方ならその人の孫に、中年の方ならその人の息子に、子供ならその子のお兄ちゃんのように患者さんの気持ちに寄り添って、病気以外の不安を取り除いてあげたいです。

手術直前では、意識がなくなる前の最後の会話は家族でもなく、主治医でもなく、比較的接点の少ない僕になります。そのため、毎回麻酔の導入時は心を込めて声掛けをしようとしています。不安な気持ちを少しでも和らげてあげたいと思います。

術後診察の際、「先生のおかげで知らん間に終わったわ。ありがとね」と言ってもらえると、少しでも患者さんの不安を取り除けたかな、心の通った麻酔ができたのかなと嬉しく思います。

入局し、三年目になりますが、「慣れ」に流されず、いつも初心の自分であるように心掛けています。医師である前に一人の人間として向き合えればと思っています。この先生に麻酔をかけてもらえて良かったと思ってもらえるような麻酔科医になりたいです。

麻酔科医の仕事は痛みを取り除いたり和らげたりすることです。患者さんの緊張と不安といった心の痛みも和らげてあげたいと思います。



麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会委員長 飯田 宏樹

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2018年6月までに、HPに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら anzen@anesth.or.jp までご連絡下さい。

<故障情報掲載ページ>

<http://www.anesth.or.jp/med/post-2.html>

日本麻酔科学会トップページ → 医療関係者の皆様 → 麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

▶ アコマ麻酔システム PRO-NEXT+s 人工呼吸器の停止

製品名

アコマ麻酔システム PRO-NEXT+s
使用年数4年

事象

全身麻酔中に人工呼吸器が突然停止し、ベローズも動作せず回路内圧も上がらないという事象が発生した。生体情報モニタで無呼吸警報が発生していた事から異常に気付いたが、手動・自動の切り替えを行うも改善しなかった。換気設定を変更しても動かなかった。用手換気にて麻酔を維持し、予備の麻酔器と入れ替えを行い手術、麻酔ともに無事終了した。

原因

駆動ガス用電磁弁の不調が確認された。電磁弁の内部にある主弁にて潤滑性が失われ動きが鈍くなり、正常な開閉ができない状態となった。

対応

換気が停止した際には自動から手動に切り替えて換気を維持する、もしくは他の麻酔器へ入れ替えを行う等の措置を取る。また、換気が停止したことを素早く察知するため患者毎に適切に警報を設定する。

▶ ドレーゲル ファビウス麻酔器 (Tiro) ポンプユニットの不良

製品名

ドレーゲル社 ファビウス麻酔器 (Tiro)
使用年数3.5年 (耐用年数7年)

事象

機器使用中に「ベンチレータ異常」のアラームが鳴り、人工呼吸器の器械換気が停止したため、手動モードへ切り替えて換気を継続した。

原因

ドレーゲル社の調査により内蔵ポンプユニットの電氣的故障が判明した。

対応

当該機はポンプユニット交換後、正常に動作していることを確認した。また、ドレーゲル社から不具合報告として行政機関へ報告がなされている。

▶ 日本光電 マルチガスユニット 「ウォータトラップ確認」の誤アラーム

製品名

日本光電社
(1) マルチガスユニット GF-210R
(2) マルチガス/フローユニット GF-220R
使用年数1年

事象

ウォータトラップが装着されているにもかかわらず、「ウォータトラップ確認」のアラームが発生し、麻酔ガスの値および波形が突然消失した。

原因

GF-200シリーズ専用のサンプリングライン (内径1.2mm、長さ3.0m) を接続すべきところ、GF-100シリーズ用のサンプリングライン (内径が太い) が誤って接続されていたため、圧力センサが異常と認識した。

対応

GF-100シリーズとGF-200シリーズを併用している施設では、サンプリングラインが混在するため、GF-100シリーズにもGF-200シリーズ用サンプリングラインであるYG-610P [V919] を統一して使用することを日本光電社は推奨している。

▶ GE ヘルスケア・麻酔器エイシスCS²の気化器エラー

製品名

エイシスCS²全身麻酔装置
使用年数2年 (耐用年数7年)

事象

セボフルランを使用中、濃度設定を変更していないのに突然生体モニター上のセボフルラン吸入濃度が上昇し、「気化器エラー」メッセージが表示されたのち、セボフルランが流れなくなった。他の症例でも同じ事象が起こったため、修理対応をした。修理後に再度異常な高濃度吸入が同日で2度発生したために、デスフルランの気化器カセットに交換したが、再び同様の現象が発生した。

原因

GE社による再現性は確認できなかった。初回の障害発生時、「Closed Loop Control Failure」のログ記録に基づき原因として疑われたバックプレッシャーバルブを交換した。修理後の再発生時には「INFLOW OUTFLOW CROSS CHECK FAILURE」のログ記録があったが、原因を特定できず、気化器システム全体の「Electronic Vaporizer アセンブリ」を交換した。原因については製造元で検証中である。同様の「気化器エラー」発生事例は、2017年11月2日HP掲載「GE ヘルスケア・麻酔器エイシスの気化器エラー」に報告している。

対応

上記アラームが発生した場合、エイシスのマニュアルに従って以下の対応を行う。
・他のアラジンカセットを試す
・他の麻酔方法に切替える
いずれかの方法で対処しても気化器エラーの表示が消えない場合、速やかに他の麻酔器との入れ替えを行うなどの措置を取る。

▶ コヴィディエン・McGRATH MACの画面

製品名

コヴィディエン(メドトロニック) McGRATH MAC

事象

新しく購入したMcGRATH MACの画面が、以前のバージョンと比べて見えにくい。

原因

メーカーの見解は、不具合ではなく製品開発方針に基づく見え方の違いであるとしている。2015年から導入された第3世代において液晶ディスプレイとカメラレンズを変更し、画面上の見え方を改良しているとのことである。

対応

製品の特徴を理解して導入、使用する。

以下についても、故障情報掲載ページ (<http://www.anesth.or.jp/med/post-2.html>) で報告しております。ご参照ください。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | アコマ医科工業・麻酔器の気化器マウントの改修 |
| 2 | フィリップス社・生体情報モニタの不表示 |
| 3 | パーカー気管チューブのコネクター成型不良 |
| 4 | アルチバ® 静注用2mgの自主回収 |
| 5 | Cook アーント気管支ブロッカーカテーテル販売中止に関して |
| 6 | アコマ・麻酔器Pro-45の自動/手動切替操作の注意 |
| 7 | GE ヘルスケア・ジャパン社 気化器ロック機能について |
| 8 | GE ヘルスケア・ジャパン社 TEC7 気化器セボフルランのリーク |

2018年度名誉会員の推戴を受けて

「名誉会員の名誉を横に置いて」

国際医療福祉大学 副学長 外 須美夫

第65回学術集会前日の5月16日に名誉会員の推戴式が行われました。壇上で稲田理事長から名誉会員の推戴状と盾をいただき光栄に思うとともに、感無量のひと時を味わいました。名誉会員に推戴された後、学会場で多くの人から「名誉会員、おめでとうございます」と声をかけてもらいました。ただ私としては、名誉会員を戴いたことは名誉なことですが、肩を叩かれているような気分になって、充実感よりもむしろさみしさを味わっていました。



名誉会員になるということは、現役会員から退役会員になることを意味します。本学会の会員としては現役をやめることとなります。しかし、麻酔科医として現役をやめるわけではありません。私もまだまだ麻酔科医として、このまま現役を続けようと思っています。いや、ただ続けるのではなく、麻酔科医として精進して、成長してい

こう、磨きをかけようと思っています。麻酔科医として、痛み、命、安全、意識、そして心について、これからも深く考えていきたいと思っています。

私はこの3月で定年退職となり、4月から新しい職場で勤務を始めました。といっても、4月は巡礼の旅に出たので、5月からの勤務となりました。名誉会員にふさわしい人間になろうとして巡礼の旅に出たのではありません。巡礼の旅といっても何も考えずボーとただ歩くだけの旅です。定年退職の記念に、21年間の教授生活を全うしたご褒美に21日間の空白の時間を頂いて、高野山まで山陰道を歩く、陰の細道の旅をさせていただきました。

そこで私は、野鳥や木々や花々に出会い、里山の暮らしに出会い、日本の美しい風景に出会いました。いま私は、名誉会員として、美しい麻酔の風景に出会うことを願っています。我と欲と金にまみれつつある日本にも、まだまだ美しい原型が残されています。我と欲と金にまみれることのない美しい麻酔の風景を、名誉会員の名誉は横に置いて、麻酔科学会の一会員として、見続けたいと願っています。

2018年度選挙スケジュール

公益社団法人日本麻酔科学会 選挙管理委員会 委員長 白石 義人

2018年度選挙の今後のスケジュールは下記の通りとなります。

2018年 8月22日(水)	女性枠代議員選任選挙・投票開始
2018年 9月10日(月)	投票締切
2018年 9月11日～9月15日	女性枠代議員選任選挙開票・選挙結果公示
2018年 9月18日(火)	理事候補者(全国・支部・女性枠)選出選挙施行会告・立候補受付開始
2018年 10月 5日(金)	立候補締切・審査及び立候補者確定
2018年 10月 15日(月)	理事候補者選出選挙投票開始
2018年 11月 2日(金)	投票締切
2018年 11月 5日～11月12日	理事候補者選出選挙開票・選挙結果公示
2018年 11月 16日(金)	理事長予備選挙開始
2018年 11月 28日(水)	予備選挙締切
2018年 11月 29日～12月 3日	理事長予備選挙開票・選挙結果公示
2019年 1月以降	理事就任予定者会議開催(次期理事長選出)

周術期管理チーム委員より

2014年度より開始した周術期管理チーム認定制度について、2014年度より看護師認定、2016年度薬剤師、2017年度臨床工学技士と職種毎にそれぞれ認定制度を開始しております。資格要件、申請方法等については周術期管理チーム認定制度HPよりご確認賜りますよう、関係者にご周知下さい。

<http://perioperative-management.jp>

「周術期管理チーム2014年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チーム2015年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チーム2016年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チーム2017年度認定試験問題 解説集」、「周術期管理チームテキスト第3版」は、書店でお買い求めいただけます。

第8回定時社員総会報告

2018年5月16日(水)、第8回定時社員総会がパシフィコ横浜 国立大ホール開催されました。規程、細則等の規則変更は本学会HP内「日本麻酔科学会について」の「定款及び規程・細則」よりご確認下さい。

また、「2017年度事業報告・2017年度決算・2018年度事業計画および予算」をそれぞれ公開しておりますので、本学会HPより規則変更とあわせてご確認下さい。

APSF ニュースレター日本語版 第2号の発行について

安全委員会

本学会と麻酔患者安全財団(The Anesthesia Patient Safety Foundation、APSF)は、APSF ニュースレターを日本で作成し配布するため、提携を結んでおります。

先頃、第2号が発行されました。記事は、日本麻酔科学会HP 7月11日付けの重要なお知らせ「APSF ニュースレター日本語版 第2号の発行について」をご覧ください。

メールアドレス・勤務先・住所の 確認変更のお願い

○会員WEBページ「マイページ」について

会員WEBページ「マイページ」（会員情報管理WEBページ、年会費支払、単位管理など）が2016年10月より変更になりました。

ログインページURL：https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx

※日本麻酔科学会HP トップページ「重要なお知らせ」欄の上に掲載している『「マイページ」 ログイン』からもログイン可能です。

※ログインするためには会員番号とパスワードの入力が必要です。会員専用HP「Datura」のログインID・パスワードとは異なります。

こちらの会員WEBページ「マイページ」のご使用について下記にまとめさせていただきます。

【マイページから行っていただける手続き】

- ①年会費支払、領収書発行
- ②会員情報変更
- ③各種領収書の発行
- ④会員カードの再発行申請
- ⑤単位取得状況確認
- ⑥学術集会事前申込
- ⑦Eラーニングの受講
- ⑧認定資格入力、書類作成

【マイページから行っていただけない手続き】

- ⑨抄録の受付、査読

※①から⑤に関しましては、マイページにログインいただいた後「プロフィール」から、手続きを行っていただけます。

※⑥に関しましては、マイページにログインいただいた後「学術集会事前受付」から、⑦に関しましては、「e-Learning」からそれぞれ行っていただけます。

※⑨については別システムとなり、別途メール連絡を以ってご利用頂くこととなっております。

○会員WEBページ「マイページ」変更のご案内および登録住所の確認のお願い

年会費支払、会員情報変更のWEBページを新システムに移行致しましたが、会員の皆様にご変更頂きました会員情報について情報が一部反映されていない場合がございます。お手数おかけ致しますが、必ずご確認頂きますようお願い致します。

○メールアドレス・勤務先・住所の確認・変更をお願いします

メールアドレスや勤務先、自宅住所が変更になった場合は、忘れずに会員情報の変更も行ってください。会員専用ページ「プロフィール」内「会員情報更新」より変更が可能です。会員情報が更新されていないと、重要なメールや発行物が届かず、先生ご自身に不利益が生じる可能性があります。

※勤務先が認定病院の場合は、必ず、施設番号欄横の「検索」から施設名検索を行い、選択してください。

※認定病院情報（住所・電話番号・代表医など）の変更については、認定病院の代表専門医より変更申請が必要です。個人での変更は出来ません。

ログインページURL：https://nsas.anesth.or.jp/JSA_LOGIN.aspx

■メールについて

●弊会からのメールは「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」または「@atlas.jp」ドメインからお送りします。「@anesth.or.jp」、「@center.anesth.or.jp」および「@atlas.jp」ドメインを受信できるように、お使いのメールソフトで設定してください。

●携帯電話のメールアドレスは利用できません。

●認定申請の結果など、重要なお知らせもメールでご連絡します。正しいメールアドレスを登録した上で、必ずメールを確認するようにしてください。

●重要なお知らせについては、日本麻酔科学会ホームページ及びマイページにニュースとしても掲載します。併せて確認するようにしてください。

2018年度の年会費をお支払ください

2018年度年会費の支払締切日（2018年9月30日（日））が近づいております。

まだお支払でない方は、至急お支払ください。

会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従ってお手続き下さい。

2017年度、2018年度の年会費未納の方へ —ご周知ください—

●2018年9月30日に2017年度年会費に未納があった方は、「学会の発行する会員向けの印刷物及び電子的情報の配布を受ける権利」「認定医、専門医、指導医等の資格の申請をする権利」を停止させていただきます。2年度分を完納いただければ権利は復活します。

●2019年3月31日に2017年度年会費に未納がある方は、2019年3月31日時点で退会となります。

再度会員になる場合は入会の手続きを行っていただく必要があります。ただし再入会時に従前の専門医等の認定資格は復活せず、認定医から再度取得となりますのでご留意下さい。

領収書について

会員専用ページ「プロフィール」内、左側メニューボタン「年会費支払詳細・領収書発行」より画面に従って出力下さい。（1回のみ出力可能です）

※年会費以外の領収書発行については左側メニューボタン「会費以外の領収書発行」より可能です。

入会について —ご周知下さい—

毎日10日を期日とし、入会申請を受け付けております。入会申請には、①WEB申込及び②書類の提出が必要となっており、①・②どちらも完了している方を対象に入会審査を進めております。審査後、同月15日付けで入会承認結果を申請者にメールで通知いたします。承認された方はメールに記載されたURLから、期日までにクレジット決済で年会費を入金して頂くことになり、入金完了時点で会員となります。

※一旦退会后、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行って下さい。直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと合わせて入会年度の年会費をお支払い頂き、再入会となります。ただし、専門医等の認定資格は再入会しても復活しません。再度認定医から取得し直していただく必要があります。

※新入会と再入会の申請窓口は異なります。ご自身の申請内容をご確認の上、入会申請をお願いいたします。異なる窓口からご申請された場合には、申請取り消しとなり、再申請が必要となります。その場合、入会時期が遅れる可能性がございますことご理解いただきますようお願いいたします。

会員(IC)カード発行について

2018年度支部学術集会に間に合う会員(IC)カード申込期日は2018年7月20日(金)となっております。期日までの再発行申込完了者及び入会者には8月下旬に発送いたします。期日以降の再発行申込者及び入会者には2019年度学術集会に間に合うよう発送する予定でございます。会員(IC)カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録(チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退室に必要です。紛失された方は会員専用ページ「マイページ」内「プロフィール」、左側メニューボタン「カード再発行申請」からお手続きを行ってください。当日持参がない場合は、会場で会期中使用可能なカードを有料発行頂きます。



マシモジャパン株式会社
 〒169-0074
 東京都新宿区北新宿2-21-1
 新宿フロントタワー24階
 TEL:03-3868-5201 FAX:03-3868-5202
<http://www.masimo.co.jp>

編集後記

最近ビジネス書を読むようにしています。

年齢を重ねるとともに管理職の仕事が増えた事が主な理由ですが、医師という職業は一般常識に欠ける部分があると言われる事も理由です。

出張のたびに少しずつ増えており、新幹線のお供として最適です。

お互いにメリットのあるビジネス上の契約をWin-Winと称することは既に多く引用されていて、ご存知の方も多いと思いますが、近江の商人の考え方で「三方良し」という考え方があることを最近知りました。「相手と自分さえ良し」だけに留まらず「世間も良し」が理想という考えのようです。非常に日本的な考え方なのかもしれませんが、Win-Winより物事全体を俯瞰して結果を想定している分、こちらの方が上位互換の考え方に思えます。

他科の医師と交渉し、全臓器のバランスをとる仕事を生業とし、日常的に危機管理とマネージメントをこなす我々麻酔科医

の仕事にも非常に参考になる話だと思えます。

昨今話題になっている「働き方改革」は労働時間の適正化の観点で我々の業界にも変化を求めています。同時に各種ハラスメントに対する適切な対応等を含めたコンプライアンスの徹底も病院単位・学会単位で必要不可欠の取り組みになっているように思います。最近マスコミで報道されているニュースの多くは「事件とはならないまでも個人的モラルに欠けた出来事」とそれに対する組織の「コンプライアンスの欠如」と「危機管理の甘さ」に総括されるように思います。

世間からは高いモラルを持つべきと思われる医師の中でもバランス感覚に長けた特性を持っているはずの我々麻酔科医は業界を率先して「三方良し」を念頭に最適解を求めていけたら良いなと思います。

このような事を思いつつの今回のNews Letterです。

(広報委員会委員 藤中 和三)

公益社団法人 日本麻酔科学会

NEWS LETTER

2018 Vol.26 no.3

<http://www.anesth.or.jp>

2018年8月20日発行

©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て(公社)日本麻酔科学会に帰属いたします。
無断複製・転載を禁じます。

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 足立 健彦
 [広報副委員長] 白神 豪太郎
 [広報委員] 加藤 里絵、渋谷 博美、橋本 悟、藤中 和三、萬 知子
 〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号
 神戸キメックセンタービル3階
 TEL:(代表)078-306-5945
 (認定関連問合せ専用ダイヤル)078-335-6078
 FAX:078-306-5946

◆制作 株式会社杏林舎
 〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
 TEL:03-3910-4311 FAX:03-3949-0230